

とさめさ

特集

p4~8

男女がいきいきと暮らす社会をめざして

「東久留米市男女平等・共同参画に関するアンケート調査」から見えてきたもの

トップ・インタビュー p2~3

「経験から生まれるものを大切に」
～世代を超えた交流から～

p9

「フィフティな川柳」入賞作品発表

情報ホットライン p10~11

講座レポート 書籍紹介

フィフティ²から p12

「デジママ Net東久留米」

2010 秋

NO.

45



経験から生まれるものを大切に

世代を超えた交流から

私たちの生活にかかせない衣服を作ることで見えてくるものがあります。自由学園最高学部(大学)の4人の学生が被服学の勉強のために介護老人福祉施設シャロームを訪れ、高齢者の方々と交流を通し、車いすでもはきやすいズボンを製作してプレゼントしました。



自由学園最高学部

かつた いぶき
勝田息吹さん

たいのしょう あやか
田結莊綾香さん

やろぎ わき
八弮和希さん

しらい かずさ
白井和佐さん

(写真右から)

「シャロームの方々にはどのようにズボンを渡されたのですか？」

「昨年クリスマスプレゼントとしてカードを添えてお渡ししました。思った以上に皆さん喜んでくださりうれしかったです。「ただでもらうのは悪いわね」とおっしゃる方もいました。」

「一カ月くらい前に採寸をして布を選んでいただいていたのですが、そのことは皆さん覚えていなくて…。思いがけない贈り物のように喜んでくれました。」



「広げてすぐに着てくれた方もいれば「正月に着させてもらうね」と言っていて、泣いている人もいて…。その姿を見て、私たちも感激しました。」

「シャロームでは高齢者の方とどう交流をしていたのですか？」

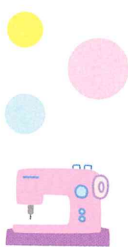
「以前からボランティアで話し相手に行っていました。話の内容は、お天気が学校の事など世間話ですね。いつも施設で暮らしている方に、普段と違う空気を味わってもらおうという目的です。」

「私は身近にお年寄りがいないので、最初はどんな会話をしたら良いのか少し不安でした。高齢者の方は、何度も同じことを聞くので、こちらは何度も同じことを答えて

…。でも不思議と、嫌な気持ちは全然なかったです。」

「私は祖母が認知症なので同じことを何度も繰り返すことなどよく分かっていたつもりだったのですが、施設に行くとは本当にさまざまの方がいらして、少しショクでした。」

「お話している途中で寝てしまった方がいました。何も逆らわない自然体な感じがいいなあと思いました。たくさん話をしたわけではないけれど、安心したというか、元気をもらったような気がします。」



「ズボンの製作から完成までの事を教えてください」

「車いすの方は座ったままの状態でも楽なズボンを作りました。ズボンは座っていると前にしわがよったりします。座位を測って座っている状態にふさわしい型紙を起こしました。私だったら他人に身体を触られるのはあまりいい気持ちがないので、採寸する時少し心配だったのですが、「どうぞどうぞ」ととても協力的で驚きました。」

「布はサンプルをお見せして選んでいただきました。「どれがいいの?」と聞かれ、「これは明るい色でいい生地ですね」「柔らかくて気持ちいいですね」と手触りや色を考えて一緒に決めました。皆さんとても

楽しそうでしたね。

洋服って幾つになっても選んだり着たりすることで気持ちがあがるっていうか…。気分が良くなるものだと思います。今回は一人ひとりが担当を決めて作るオーダーメイドだったので、それぞれの方の要望を聞くことができ、僕たちもいい経験になりました。

中等科のころから自分の服は作っていたのですが、今回は自分以外の人が着ていただく、差し上げるといふことで（製作にあたっては）いつにない緊張感がありました。

途中で着てみてもらうこともできないし、腰回りが広いけれどこれでもいいのかなと心配になったり…。普段自分で作るズボンと形が全然違うので。でも実際着ていただいたら本当にびったりで、ほっとしました。

―被服学の勉強はどうですか？

僕は洋服が大好きなので、『被服学』をとりました。最初は全然うまく縫えなくておもしろくなかったですね。思っていたより難しかった。女子は皆うまくて…。でも自分の着たいジャケットをどうしても作りたくて、頑張ってみました。服作りを通して、できなかった事ができるように嬉しさを感じて、勉強するってこんなことだなと思いました。進歩することが目に見えること、自分の中に技術が入ってくる感じがよかったです。シャロームのズボンを作るのは今回で三回目だったのですが、確実に技術力は上がりました。

―今日着ている洋服は手作りですか？

はい。全部手作りです。デザイン



被服学指導の かじ やすこ 加地泰子先生

高齢者や障害者の方に、着心地の良い服を作って差し上げられるといいなと思うっていました。ほんの少しの工夫で片手でも着脱の簡単な服ができます。学生には経験を通じ、被服学の観点からいろいろな発見をしてほしいと思っていました。苦勞して勉強した事が人の役に立つという経験も大切だと思います。今後は東久留米の方々と交流を深め、高齢者や障害者の方たちの洋服を研究するグループを作りたいですね。学生と地域の方々がお互いに経験や知恵を持ち寄り、共に何かできるいいなと思っています。

ンもして、くるみボタンも自分で作りました。ジャケットは安い布を買って張り合わせたりして、自分の好きな物を作っています。手作りだと自分の身体にぴったり合いますし。どの世代の人も素敵な服を着たいと思う気持ちは同じだと思いますね。僕は将来服を作る仕事に就きたいと思っていますので、今回の経験は生かしていきたいです。

幼児服や高齢者の服を作っていると、その年代で工夫することがあるなと思います。小さい子はまず動きやすいように考えます。それから自分でやりやすいようにスナップボタンにするといいな、子どもらしい色はどんな感じかなと。ただ小さく作ればいいのではありませんね。

洋服は着ている人が嫌な気持ちになるのはだめですね。作る側がこだわりすぎて着心地が悪いといけないと思います。相手の事をよく考えて十分にコミュニケーションがとれると、いい服ができると思います。手作りはそれができるのでいいですね。

きつこうすればいい、便利だろう、という想像だけでなく、お話ししたり、生活を共にすることで気付くこともある。お年寄りがいいると思う部分は、私にとって意外なところも多かったです。



車いすでもはきやすいズボン



シャロームにて

今まで高齢者の方と接する機会がほとんどなかったので本当にいい経験になりました。まだ将来(仕事)は何をするか決めていませんが、子どもや家族の洋服は手作りしたいなと思いました。

文 / 木山直子
写真 / 木山裕策(インタビュー時)

11月23日(祝)
自由学園キャンパスにおいて「南沢フェスティバル」が開催されます。一般の方も参加できます。

男女がいきいきと暮らす 社会をめざして

「東久留米市男女平等・共同参画に関するアンケート調査」
から見えてきたもの

東久留米市では平成13年に策定した
「改定版 東久留米市男女平等推進プラン」
の計画期間が満了するにあたって、現在、次
期プランの策定作業を進めております。
その基礎資料とさせていただくことを目
的としてアンケート調査を実施し、このたび
調査結果がまとまりました。



〈アンケート調査概要〉

実施期間：平成22年1月27日～2月26日

調査対象：東久留米市に居住する満20歳以上の市民

抽出方法：平成22年1月1日の住民基本台帳からの無作為抽出
(年齢層、性別割合は同等となるよう設定のうえ)

対象数：2000人

回答数：763人 (38.2%)

回答数内訳：男性326人(回答比率42.7%)
女性437人(同57.3%)

調査結果の中から、ときめき編集委員が目にした
6つの項目「ワーク・ライフ・バランス」「家庭生活」
「介護」「育児」「男女の平等感」「市の取り組み」
について取り上げてみました。
アンケートから見えてきた東久留米市民の男女共
同参画に対する意識とは…?

ワーク・ライフ・バランスについて

ワーク・ライフ・バランスとは「仕事と
生活の調和」のことです。

あらゆる世代の男性も女性も、自
分に合ったバランスでさまざまな活動
を行うためには、ワーク・ライフ・バラ
ンスの実現が必要とされています。

●どのくらい働いているの？

男性30代で週に40～50時間働いて
いる人が41%、同40代では50～60時
間が30%と、子育て世代の長時間労
働が見えてきます。

●自由に使える時間は？

男女とも40代で、自由時間が1
日2時間未満の人が5割を超えて
います。

●仕事をする上で悩みや難しさは？

(複数回答)

男女ともに「特に悩みはない(23%)」
人も多くみられますが、「悩みがある」
と答えた人たちの中では「賃金が安い
(13%)」ことが目立ちました。

しかし、女性では「家事・育児・子
どもの教育との両立が難しい(17%)」
ことが「賃金が安い」悩みを上回って
います。

また、「健康に自信がない(11%)」
「趣味・地域活動が思うようにでき

家庭生活について

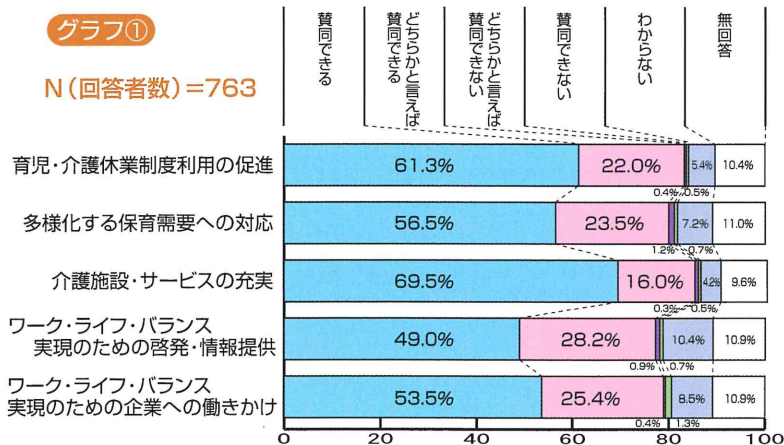
ない(10%)」といった悩みも男女に共通しており、各々の求めるワーク・ライフ・バランスの実現が難しいことがわかります。

●ワーク・ライフ・バランス推進の取り組みに賛同できますか？

各種取り組みに約8割の賛同を得ています(グラフ①)。中でも、育児・介護休業制度利用の促進や介護施設・サービスの充実などの取り組みに対する賛同が多いことがわかります。

グラフ①

N(回答者数)=763

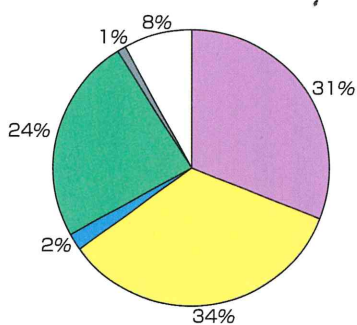


●家事分担の理想と現実とは？

ワーク・ライフ・バランスの実現のためには、家庭生活でも男女(夫婦・家族)の協力が欠かせません。家事の分担について、理想は？そして現実はどうなのでしょう？

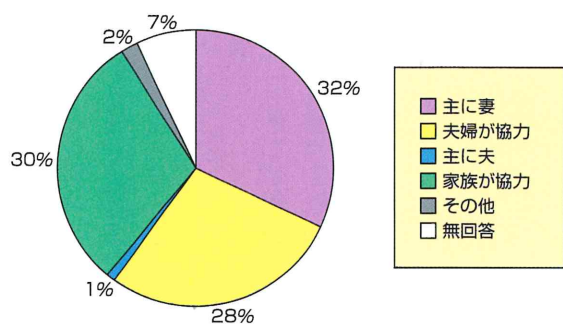
家事の分担—理想(男性の回答)

グラフ② N=326



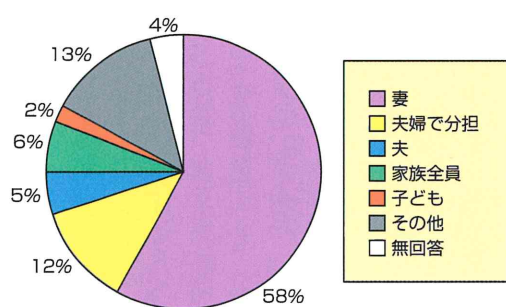
家事の分担—理想(女性の回答)

グラフ③ N=437



家事の分担—現実

グラフ④ N=763



理想(グラフ②③)では「家族が協力」「夫婦が協力」しているという姿勢がうかがえますが、現実(グラフ④)は役割の多くを女性が担っていることがわかります。

●どう思う？「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方は賛成である「どちらかといえば賛成である」が半数を超えています(53%)。

年代別に見ると20~40代は39%、50代は54%、60代以上では62%と、年代が高くなるにつれ、賛成意見が多くなっています。若い年代層には男女共同参画の意識が浸透しているというのでしょうか。

働くか働かないかは、各個人・

家庭の判断です。重要なのは、自由に選択できるということであり、男女問わず就業の環境づくりが必要と思われれます。

介護について

高齢化が進んだことで、誰もが介護について身近な問題として考えなくてはならない状況になっています。

●誰に頼みたい？あなたの介護

(複数回答)

「病院・施設(47%)」が「配偶者(46%)」を上回り第一位に、「ホームヘルパー(23%)」とともに、身内に頼らない介護を希望する人が多いという結果でした。

●男性による介護はなぜ少ない？

(複数回答)

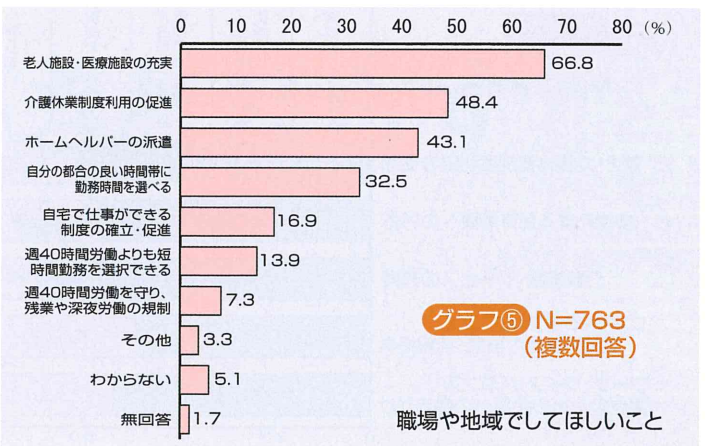
「仕事を休むことによる経済的な損失」が45%を占めました。「休暇がとりにくい(25%)」「仕事が忙しい(20%)」など仕事面の理由もあげられていました。

●職場や地域でしてほしいこと

前述の質問の答えにある希望や現状が反映された結果となりました。(グラフ⑤)



育児について



職場や地域でしてほしいこと

男性が育児に参加するためには、育児のための時間を確保することが必要です。最近では男性の育児にも注目が集まっていますが、実際にはどのように考えられていますでしょうか？

● **男性の育児休業取得、賛成？ 反対？**
70%の人が男性の育児休業取得について賛成しています。

● **取りたくても取れない？ その理由は？**
「後々、待遇面で不利になる」「収入減になる」など休暇取得による不利益が、理由の3割を超えました。

イクメンプロジェクト

男性の育児参加を促進するために、今年6月、厚生労働省は「イクメンプロジェクト」を発足させました。イクメンとは「育児」と「イケメン」をあわせた造語で「子育てを楽しみ、自身も成長する男性」または「将来そんな人生を送ろうと考えている男性」のこと。イクメンがもっと多くなれば、妻である女性の生き方が、子どもたちの可能性が、家族のあり方が大きく変わっていく、社会全体ももっと豊かに成長していくだろう、というビジョンを掲げて発足したものです。開設した専用サイトに子育てに取り組む男性に登録してもらい、推進チームが月1度「イクメンの星」を選んでサイトで紹介しています。

東久留米の「イクメンの星」

「パパたちの「パパたちによるパパたちのサークル」。育児や家事、家庭やパートナーシップなど、パパ仲間と勉強会やイベントを企画・実施！多くのイクメンの星を募集中です。問い合わせは男女平等推進センターへ
ブログ <http://papaai.seesaa.net>

● **子育てや介護のために仕事を辞めた人たちがいます**

「子育て」がなければ仕事を続けていた人が33%、「介護」がなければ

ば続けていた人が25%います。

「子育て」「(妻の)出産」「介護」のために仕事を辞めた男性は皆無ですが、女性では退職理由の39%を占めていました。

子育てや介護をしながら仕事が続けられる環境づくりが必要だと思われます。

男女ともに子育てや介護をしながら働き続けることができる社会を目指して、育児・介護休業法が改正されました！

改正育児・介護休業法とは：

3歳までの子を養育する労働者が1日原則6時間の短時間勤務を可能にする制度の導入を企業に義務付け、請求があれば残業を免除することを明記。子の看護休暇制度も拡充された。また、母(父)だけでなく父(母)も育児休業を取得する場合、休業可能期間が、現行の子どもが「1歳に達するまで」から「1歳2カ月に達するまで(2カ月分は父(母)のプラス分)」に延長。改正後は配偶者が専業主婦(主)や育児休業中でも、父(母)は育児休業が取れる。さらに、配偶者の出産後8週間以内の期間内に、父が育児休業を取得した場合には、特別の事情がなくても再度の取得が可能となった。

また、年5〜10日の介護休暇も新設された。

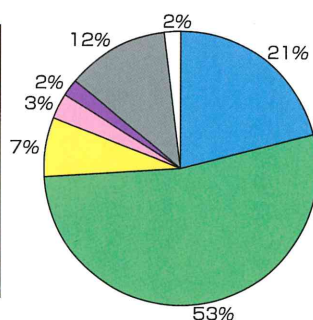
男女の平等感について

「男女共同参画社会基本法」が施行されてから10年が経ち、さまざまな分野へ女性が進出するようになってきたが、現実には男女平等はどのように感じられているのでしょうか？

社会全体で見る男女の平等感と、家庭生活や職場における男女の平等感に注目してみました。

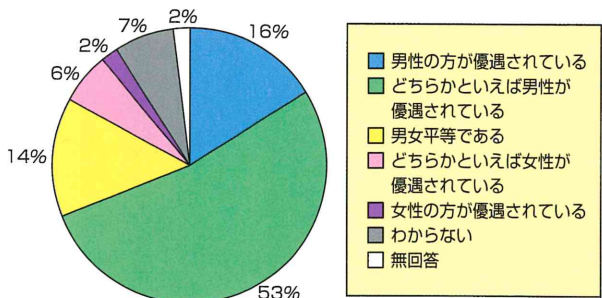
男女の平等感—社会全体 (女性の回答)

グラフ⑥ N=437



男女の平等感—社会全体 (男性の回答)

グラフ⑦ N=326



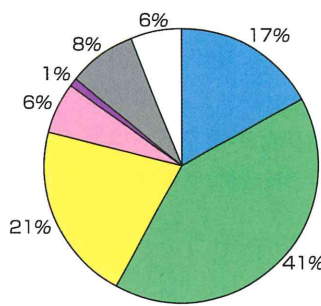
社会全体で見た男女の平等感について(グラフ⑥⑦)は、男性が優遇されていると考えている人がまだまだ多いということがわかります。

男女別に見ると、男性の方が男女平等と感じている人が多いようです。

また、家庭生活(グラフ⑧)や職場(グラフ⑨)から見ても、男女の固定的な役割分担意識がまだ根強く残っているように思われます。

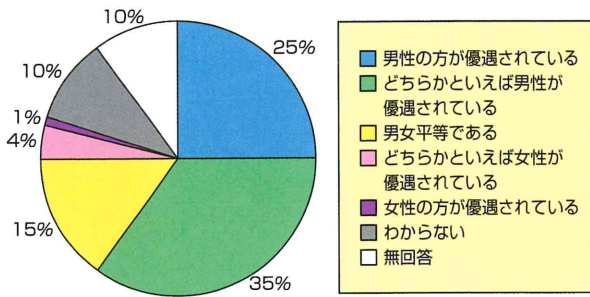
男女の平等感—家庭生活で

グラフ⑧ N=763



男女の平等感—職場で

グラフ⑨ N=763



市の取り組みについて

●市の取り組みへの賛同は?

東久留米市では人権尊重と男女平等の意識づくりのために幼児・学校教育や男女平等推進センター「フイフティ²」での啓発活動などにおいて改善に取り組んでいます。

これらの取り組みについては74%の方が「賛同」「どちらかといえば賛同」と回答しています。

●就業分野における取り組みへの評価は?

73%の方々から賛同できるとの回答をいただきました。

少子高齢化の進行と、社会経済情勢の急速な変化に対応していく上で、男女が、性別にとらわれないことなく、その個性と能力を發揮していかなければならない世の中になりつつあります。

市の平成23年度からの第4次長期総合計画基本構想において、「自然 つながり 活力あるまち「東久留米」がまちの将来像になりました。この将来像の実現のためにも就業分野での男女共同参画は欠かすことのできない施策になります。

☆男女の地位の不平等感改善のため、市では男女平等推進センター「フイフティ²」においてさまざまな事業を行っています。

《フイフティ²の事業内容》

- ・情報の収集(図書・ビデオ・資料の閲覧、貸出し)
- ・講座の開催(労働講座・再就職セミナーなど)
- ・活動への支援(活動の場の提供、事業企画の相談やアドバイス)
- ・情報誌『ときめき』の発行

『ときめき』について「知っている」「少し知っている」人は9%、「聞いたことがある」人は14%。「まったく知らない」人がなんと66%もいました。

『ときめき』は市内各所で入手できます!!

市役所、生涯学習センター、市内各図書館、地域センター、地区センター、地域包括支援センター、青少年センター、スポーツセンター、コミュニティホール、郵便局、銀行、東久留米駅など

*詳しくは男女平等推進センターへお問い合わせください。

あなたもフイフティ・フレンズになりませんか?

フイフティ²の「フイフティ・フレンズ」にご登録いただいた方には男女平等推進センターから『ときめき』を直接お送りします。

★フイフティ・フレンズとは: 男女平等推進センターの事業運営に協力していただける仲間のことです。市内在住・在勤・在学の個人または団体の皆さんにご登録いただいています。ぜひご登録ください。

★フイフティ・フレンズ登録方法: 男女平等推進センターに備え付けの登録用紙にご記入の上、提出してください。
★フイフティ・フレンズにご登録いただくこと『ときめき』をはじめ、講座情報やお知らせを配信させていただきます。ほか、センターでの活動をサポートいたします。

「東久留米市男女平等・共同参画に関するアンケート調査」の集計結果については東久留米市のホームページ、市政情報コーナー(市役所2階)でご覧いただけます。

男女平等というすべて何から何まで対応、待遇を一緒にしようと考えられがちです。(20代)

外での仕事も家庭内の仕事も男女同等に進みこませる世の中にならなければいけないと思います。教育の場でも男女平等がきちんと育つよう支援を。(50代)

男女平等とは女性の権利などを男性と同様にする事ではなく、それぞれの能力などを認め合うことではないか。(30代)



男女平等をめざすのは良いが、人材配置などは男女平等にとらわれすぎないようにしてもらいたい。大事なはその人の能力。(30代)

本当に男女が平等に働く社会を作るなら、同時に子どもたちにきちんと責任を持って、地域で育てていく仕組みを作る必要がある。(30代)

女性の家事育児が大変と言われているが、男性の職場での苦勞のほう大きい。(60代)

男女共同参画について、大学で初めて知った。(30代)

男女平等意識が強くなるに従って、逆に住みづらい暮らしにくい世の中になっている気がします。(30代)



日本人気質の中に男尊女卑が…(40代)

要は、すべての人が平等に食べられて、平等に住めて、平等にすべてを分け合いながら生きればいいのかと思う。そのためには…? もっともっと皆がゆったりゆっくりに暮らせる望ましい在り方があるんだろうなと思う。(30代)

何となく気軽に参加できない雰囲気…。もっと市民にアピールが必要だと思います。(50代)



男女平等という言葉がひっかかります。すべてに男女平等でいいのか?(50代)

家事を手伝わない夫の意識改革は難しい。(40代)

男女共同参画施策…もっとわかりやすい言葉で(40代)



男女平等の言葉はわかるが男女共同参画をもっとわかりやすく。(60代)

男女共同参画社会

「男女共同参画」というのは男性も女性も性別に関係なく、自分の意思でいろいろなことに取り組んだり、ものごとの決定に携わったりすることです。そこから見える「男女平等」は男性も女性もすべて同じことをしなければならないということではなく、男女という性別によって、自分の希望とは違う選択を強いられることがないようにと考えるものです。適性や希望があれば男女に関係なく、個性が尊重され、希望が叶えられる社会が「男女共同参画社会」なのです。

*「男女共同参画」は「ときめき44号」で特集しています。「ときめき44号」については男女平等推進センターまでお問い合わせください。

川柳

入賞作品発表



一般の部

最優秀賞

料理パパ レシピ直伝

ママの味

優秀賞

パパとママ 腹周りだけが五分五分だ

女性脳 活かす社会に 明日がある



大歳 桂一

越後 雅弘

間野 浩二

定年日 妻に差し出す 感謝状

子育てを 楽しむ余裕が 産む未来

佳作

おんぶひも パパの背中に ねるむすめ

子も巣立ち 夫と共に ボランティア

古希むかえ 互いに支え 良き人生

ママ不調 おかげでパパと 子が協調

ママがこぎ パパが汲み出す 世間波

三井 良子

金田 満智枝

古屋 傳

田中 麻未子

渡辺 智賀子

大滝 正次

本田 純

学生の部

最優秀賞

めんゆでる あわてる父に

湯気がたつ

青山 玄汰(小6)

優秀賞

さりげなく 重い物持ちあう 君と僕

お父さん バイクでびゅびゅつと

かいものへ

小峰 奈緒(高2)

中里 円香(小6)



入選

パパカレー ライオンの目はブルーベリー山名 由起(小5)

育児をさー 男がやっても いいじゃん海老沢 優太(小6)

ぎこちなく 台所に立つ 父を見る 田中 美佳(中3)

佳作

洗たくを 干す手がママを 支えてる 石塚 なつ美(中1)

協力が 明るい未来を つくり出す 関根 峻花(小6)

料理する パパの背中が かついい 中村 農太郎(高1)

おんなじだ 男女ともども なかよくね 大和 周平(中1)

キミとボク 力合わせて 心合っ 齋藤 良平(高1)

家庭内 やることたくさん 今気づく 鷲頭 由実(高3)

男女はね 平等なんだ いつだって 南川 乃絵(高2)

男女がね 仲よくくらす 未来がいい 花房 正一(小6)

育児する お父さんでも いいじゃない 瀬尾 正大(小6)

家事育児 男もできる そのくらい 松本 創(小6)

育てるの 父さん母さん 平等に！ 武藤 七海(小6)

「ファイフティな川柳」とは、男女平等の考え方や男女共同参画社会の構築を表現した川柳として、男女平等推進センターファイフティが独自に名付けたものです。

6月23日から8月15日の募集期間に、寄せられた川柳は155句と、大人から高校生、中学生、小学生と幅広く、多数の方々から応募いただき、関心の高さが感じられました。

8月21日に開かれた選考会では6名の選考委員(委員長・沢田改司氏)により、入賞作品が決定されました。選考会はなごやかな雰囲気のもとに始まりました。素晴らしい作品の多さに苦慮することも度々、時には議論百出、白熱した選考会となりました。

「ファイフティな川柳」表彰式と作品展示のお知らせ！

表彰式 11月27日(土)東久留米市役所で開催される「第39回東久留米市消費者展」において入賞作品の表彰式を行います。

展示 10月22日、23日に「東京ウイメンズプラザ(渋谷区)」で開催されるフォーラムに出展するパネルで、入賞作品を紹介いたします。

また、11月24日(水)から29日(月)まで、男女平等推進センターで「ファイフティな川柳」展示をします。

フィフティ² 主催講座

私たちのこれから
”くらしむぎと働き方“ part 5
今、求められる傍楽(はたらき)方
「ワーク・ライフ・
バランスのすすめ」

〇日時 平成22年3月20日(土)
午後1時半〜3時半

〇場所 市役所 701会議室

〇講師 竹信三恵子氏

(朝日新聞編集委員)



竹信三恵子氏

講師は、記者として労働や女性問題を多く扱ってきた。また内閣府男女共同参画会議の専門委員でもあった。

現在は雇用が悪化し、長時間労働による過労から鬱になる労働者が増えている。また雇用者全体の3人にひとり、女性では約半数を占める非正規雇用者のワーク・ライフ・バランスは特に悲惨な状況にある。

こんな時だからこそワーク・ライフ・バランスについて考えなければ

ば日本に未来はないと講師は語る。日本では07年に労使協定による行動指針を作成し、働き方の見直しがされた。しかし労働組合の加入率は18%であり、男女役割分業の見直しや人間らしい暮らしの再生、同一労働同一賃金待遇など課題が山積している。

労働の偏りによる犠牲者は子どもである。男女が働くことを標準モデルとし、仕事をしながら子育てが出来るように働き方を変えて、男も女も幸せになろうと講師は言う。

参加者の若い女性が「長時間働く人が偉いという職場で、遅くまでハードに働いている。どうやってバランスをとったらいいか」と質問したところ、講師は「自分を守るために上手にサボることも必要。仕組みを一人で変えていくことは本当に難しいけれど、まずは自分を守ることを最優先に考えて休養する。そして一人で頑張らずに職場の仲間と連携することが大切」と語った。

最後に、講師自身もよく休んで元気なときにいい仕事ができると話された。



ほつとトーク!

「男女が共に働く北欧の国」

〇日時 平成22年7月10日(土)

午後2時〜4時

〇場所 男女平等推進センター 会議室

〇講師 マットソン・アベルモ・オスカル氏
楠見和歌子氏



マットソン・アベルモ・オスカル氏

講座はスウェーデンからの留学生のオスカル氏と、フィンランドに留学経験を持つ楠見氏の二人による、両国の現状や制度などについて解説を加えたトーク形式で進められた。

男女平等が進み福祉が充実しているといわれる北欧諸国は、世界的に見ても「女性がどのくらい政治や経済活動において意思決定に参画しているか」という指数において1位から4位を占めている(日本は57位)。

また、男女間の賃金の差も、北欧は格差の少ない国の上位を占める(日本は101位と男女間格差は大きく、女性の賃金は男性の67%程度)。

オスカル氏が高校生の時に、「女

性の上司の下では働けない」と主張した男性教師に対して、非難でクラス中が大騒ぎになったことがあった。20代の若者には男女平等が当たり前だが、教師の年代では女性がリーダーとして育てられていなかったのだ。スウェーデンでも年代によつて意識に差があるという一例だ。

フィンランドとスウェーデン共に育児休業制度が整っており、男女が平等に働くための重要な役割を担っていること、小学校から大学までの教育費がすべて無料なため親は教育費を心配せずに好きな仕事ができ、子どもたちも自由に進路を選ぶことができるなどのお話もあった。

最後の参加者とのトークで、「日本は先進国なのに女性は男性との格差が大きい。けれど我慢強く夫や子どもを支えている。女性の地位が低いのは儒教の影響であり、それ以前は男女ともに働き、女性も認められていた。また、北欧も男女平等が理想だが、現状ではまだ理想に達してはいない。冬は暗くて、うつ病の人も多く自殺率も高い。平等を実現するために女性は男性の2倍頑張っている」とオスカル氏は語った。





『みんな、まじめに 楽しく働きたい』

三木啓子著
アトリエエム株式会社

— 自分には関係ないと
思っていないませんか? —

「パワー・ハラスメント」。この言葉はセクシャルハラスメントなどと併せて言われてきたものだが、まだあまり認知されていない言葉です。

ここでは女性、男性にかかわらず、「地位や立場・職務」などを悪用した嫌がらせや強要などが、人権の侵害であると鋭くとらえ、それをやさしく解説したのがポケット版の本冊子である。

特徴的で目を引くのは、誰でも「加害者・被害者」になりうる、と具体的な言葉で書かれていることです。

冊子では日頃の職場や日常生活場面などでの会話や対応に問

題がないかに触れています。本文では加害者や被害者、同僚などの立場別の簡単なチェックリストがついており、理解の一助になっています。

そして「セカンドハラスメント」や関連する法律についても触れ、簡単な説明がされています。

周囲の人々からの、当事者への助言や、励ましなどの行動が、実際には二次的な、さらなる被害をもたらす事が少なからずあるというものです。

その意味では、誰でもが「セカンドハラスメント」の加害者になり得るのです。

また、法律判例などから導き出される事実への、厳しい著者の指摘は、一読に値すると感じています。

著者は民間企業、男女共同参画センター勤務を経て、2005年にアトリエエム株式会社を設立。現在、ハラスメント防止及び人材育成事業などを行っています。

また今年度DVDが作製予定となっています。関心のある方は、確認の上で参照されたい。

(佐伯淳一)

※注

今回紹介した冊子などは、書店での取扱いがありません。直接、発行元にお問い合わせください。

海外の労働事情

〜2つの講座から〜

スウェーデン

好景気だった1960年代に人手不足になり、労働力として女性の力が求められた。女性議員を増やして税金の使い道を変え、女性が働くために必要な育児・介護の支援を整えた。働く女性は税や社会保険料を負担し、財政が安定した。

現在、育児休暇は子どもが8歳になるまでに15カ月とれる。その間妊娠手当は50日まで給与の80%、両親手当は390日分80%が受け取れる。12歳未満の子の看護休暇中も60日間80%支給される。

フィンランド

民間企業で働くのは男性が多いが、地方自治体では女性が男性の約3倍。子どもが3歳まで育児休暇がとれ、賃金は所得の66%を2週間保障される。

オランダ

政府が、企業一人あたりの労働時間を減らし、労働者を増やす政策を取ったことから失業者が減少し、新たな労働力として女性も働きやすくなった。また、パートタイムが給料体系や社会保障で正社員と差別されないよう法律で守られているため、それぞれに適した働き方を選択することができる。男性の労働時間が短縮されたこ

とにより、家事や育児を夫婦で分担できるようにもなった。

ノルウェー

パクオータ制の導入で育児休暇をとる男性が増え、男性側の理解・共感が生まれた。男女で休暇を分割することによって職場での負担も軽減された。育児中の手当は、最長の54週間取得した場合、出産前の給料の80%、44週間までなら100%が支給される。

フランス

仕事と家庭を両立できる週35時間の労働を標準とし（日本の労働基準法では週40時間以内）、子育てモードに転換した。

アメリカ

企業が経営手法としてワーク・ライフ・バランスを取り入れた。働き方を見直し、労働時間の短縮を実現したことで、労働効率が上がり、病気になる社員が減り、能力ある女性の働き手を獲得できた。



*パクオータ制・マクオータ制

育児休暇の一定期間を片方の親に割り当てるもの。取らなければ権利が消滅する。ノルウェーでは育児を最長で54週間取得できるが、うち6週間は父親のみが取得可能。スウェーデンでは父親、母親に各60日が割り当てられる「パパ・ママ・クオータ」制である。

デジママにおまかせ!

あなたの“学びたい”をサポートします!



デジママNet 東久留米の皆さん
HPアドレス http://www.vis-design.net/digimamu/

「デジママNet 東久留米」は、昨年9月に、フイフイ²の呼びかけにより、東久留米市内から集まったパソコンスキルを持った女性インストラクターのサークルです。現在のメンバー8人の多くが子育て中のママです。以前培ったITスキルを生かして働きたいとの考えから、勉強会を重ね、2月に開催された「NEC子育てママのためのIT講習・アドバンス版」にて、初めて講師を担当しました。

本年度は、「二人では勉強しづらい」「市販のテキストはわかりにくい」、そんな声を受け、オリジナルのテキスト作成から始めています。再就職を目指す子育てママや、おうちのパソコンをもっと活用したいという気持ちをもった方々の「学びたい」をサポートできる活動をめざしています。

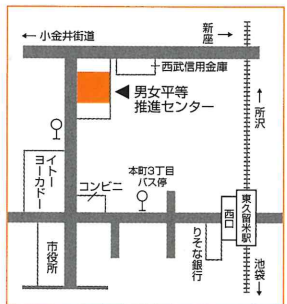
10月にはExcel講習会(初級者向け)を行います。お気軽にお問い合わせください。



「男女平等推進センター」をご利用ください。

施設案内

交流ロビー
参考図書・資料コーナー
会議室 保育コーナー
会議室の使用申請は、使用日の2カ月前の初日から前日まで。



専門相談

女性の悩みごと相談
毎週月曜日(祝日を除く)の午後1時30分から午後4時30分
女性弁護士による法律相談
毎月第1金曜日の午前9時30分から午後0時30分
・いずれの相談も予約制(先着順)。詳しくはセンターへ。

所在地・開館時間

東久留米市本町3-9-1-102
TEL (042) 472-0061 FAX (042) 472-0053
メール fifty2@higashikurume-city.jp

開館時間/月、水~日曜日 午前9時から午後9時30分
(午後7時30分以降の会議室利用がない場合は、午後7時30分まで)
閉館日/火曜日と年末年始(12月29日~1月3日)

保育付IT講習

「デジママにおまかせ!再就職のためのITスキル~Excel初級編~」
日時:10月18日(月)、25日(月)の2日間
・午前コース(10時~12時30分) Excel2007
・午後コース(1時30分~4時) Excel2003
場所:男女平等推進センター 会議室
講師:デジママNet東久留米
参加費:無料
定員:各コース14人(多数の場合抽選)
対象:再就職を考えていて2日間参加できる方。
パソコンで日本語キーボード入力ができる方
*お手持ちのノートパソコンを持参してください。保育あり(2歳から就学前まで)
申込み:往復はがきで、10月7日必着
問い合わせ:男女平等推進センターへ。

今後の講座情報(予定)

2010年
10/2(土) 市民企画講座 上州の縁切寺・満徳寺に学ぶ人間模様
10/10(日) 湯浅誠氏講演会「格差と貧困をなくすために!?!」
10/18(月)・25(月) 保育付IT講習(Excel初級編)
10/23(土) 吉武輝子氏講演会「輝子ふたたび」
11/13(土) パープルリボン・リボンレイストラップづくり
12/4(土) シネマdeおしゃべり「おとうと」
*全ての講座に、2歳以上未就学児の保育あり。
*申込み制。必ず事前に男女平等推進センターへ。
時間・場所などご確認ください。

編集後記

- 今夏の気象状況は熱中症の急増、また豪雨による風水害と、何もかも異常といえた。急ぎ世界中で対策を考えなければ… (S)
- 女性関連施設・女性団体などのための男女共同参画推進研修、また女性のキャリア形成支援推進研修などにも出席、参加してきました。全国から集まった参加者どうしの専門的な演習・研修は、情報共有の意味から有意義だと感じています。継続と専門性が、力をつける鍵だと感じる昨今です。(J)
- 人と人とのつながりが何かをかえてくれることを信じて… (N)
- 高齢者の行方不明、幼児虐待、労働者問題を解決するためにも、一人ひとりを大切にする施策を作り実行しなくては。(I)
- 特集を担当。アンケート結果を思索、分析してコメントするってむずかし~!! でもとても勉強になりました。(T)
- 猛暑・酷暑・熱帯夜。今年の夏は、毎日この“ことば”で一日一日を過ごした感じです。九月に入っても続くこの残暑に、集中力もなくなります…。(M)

「ときめき」は、年2回発行。公募の市民による編集委員6人が企画編集しています。内容についてあなたのご意見・ご感想を市民部生活文化課、または男女平等推進センター宛にお寄せください。

●表紙/てん刻サークルの皆さんの作品から制作しました。